

光潮会報

平成22年8月 第63号



山口県立光高等学校



光潮同窓会

も く じ

「隙間」としての同窓会	加藤正暢	3
御挨拶	倉田伸治	4
高校時代の思い出	市川 熙	5
ご冥福をお祈りします	藤井政道	6
関東支部から	鎌田 誠	7
関西支部から	市 來 健之助	9
私の母校	都 野 悦 弘	10
誇りある行動と連携	河 田 理 枝	11
光高の思い出といきいきサロン	大和江 智 宏	12
希望の光燦として	藤 井 政 彰	13
光潮同窓会にむけて	萬 谷 竹 彦	14
同窓会実行委員長からのメッセージ		15
部活動の紹介		16
部活動の足跡		17
大学・短大等の合格者数(過去六年)		23
就 職 状 況		27
新聞報道記事から		28
光高校歌・室女校歌みたらい学園歌・光中校歌		30
編集後記		31

平成二十二年
光潮同窓会総会のご案内

日 時 平成二十二年八月十四日(土)
十一時～

場 所 ホテル松原屋

光市虹ヶ浜三丁目九一十六
(電話〇八三三―七一〇〇四七)

次 第 11時～11時30分 総会
11時45分～14時 懇親会
会 費 三千円

本年の当番幹事は、卒業年次の末尾の数字が、昭和は五と十、平成は二と七の卒業生の皆さんです。
当番幹事の学年は、この機会に合わせて、同期会を是非開催してください。

表紙の作者

加藤 正道さん
(昭和59年卒)
光市室積西ノ庄



校内の満開の桜 (平成 22 年春)



「隙間」としての同窓会

会長 加藤 正暢 (昭和30年卒)

私は昭和三十年卒。新制度出発直後の世代で、校舎・運動場も半分、体育館など思いもよらぬこと。全校集会は青空天井であった。わたしたちは、特に不備とも思わず、当たり前のことと構えていた。どこも同じ

だからだ。

思うに、当時の先生方はおしなべて、これからの教育は自分達が担うのだという「熱」を保持し、全力投球されていた。それは日常の活動の中に発露し、わたしたちはそれとなくその姿勢を感受していた。教育システムは不全の限り、隙間だらけであった。今からすれば考えられぬ環境、生徒も荒れていた。だが決定的な「崩れ」には到らなかった。隙間を自在に泳ぐことができたからだ。先生方も隙間を有効に活用されていた。

「龍馬伝」に映る維新期、その後の時代にも多くの隙間があり、若者が思い切った大事業に抜擢される機会がいっぱいあった。

今日の如くシステムが整備されてしまうと社会の中に隙間がなくな



正門

る。わたしたちは世界に繋がる情報媒体を手にした。それで世界が拡大したか。ケイタイを駆使できるいま、逆にコミュニケーションは内向して、世界は小さく閉じていく有様。

この社会に隙間を空ける作業の一環、それが「同窓会」だ。何かにつけ同期会を開く、何かが生まれる。地域活性への一歩だ。

御 挨拶

校 長 倉 田 伸 治



同窓生の皆様方には、平素から、母校の教育活動の充実のために、多大な御支援・御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本校では、本年三月に全日制百五十五名、定時制六名の卒業生を送り出し、四月にはそれぞれ百六十名、十四名の新入生を迎え、現在、全校で五百七名の生徒が学んでいます。校訓「至誠一貫、質実剛健、堅忍不拔」と文武両道の校風の下、知・徳・体・情の調和のとれた、社会の発展に寄与しうる生徒の育成を目指し、本年度は、五十七名の教

職員が教育に当たっており、生徒はそれぞれの目標の実現に向けて、勉学に、学校行事に、部活動にしっかりと励んでいるところです。

このうち、部活動については、全日制では、硬式野球、ソフトテニス、陸上競技、弓道、ヨットの各部及び新体操同好会が中国大会に出場し、さらに、陸上競技部、ヨット部、新体操同好会については、全国大会等にも出場することとなっています。定時制においても、バスケットボール、卓球、バドミントンの各部が全国大会に出場することとなるなど、生徒の努力・教職員の指導が実を結びつつあるところです。

また、学習指導については「生徒一人ひとりの進路実現に向けた学力の定着」等を重点目標として教育活動を展開しており、引き続き、生徒

の希望進路の実現に向けてきめ細かな指導に努め、次代を担いうる人材の育成に取り組んでいるところであり、今後とも、御支援・御協力をいただきまますようお願い申し上げます。

す。
おわりに、同窓会の益々の御発展と同窓生の皆様方の一層の御活躍を祈念申し上げます、御挨拶といたしま



新入生（右側）と上級生の対面式（平成 22 年 4 月、体育館）

高校時代の思い出

光市長 市川 熙 (昭和41年卒)



高校時代の思い出はグラウンド、野球場、体育館、そして十九橋、もちろん教室も少し。

私の同級生が名付けた「十九橋」とくほはし一年生の頃は、ゆっくりと誇らしく、三年生になると、遅刻を恐れ、あえぎながら渡り、教室へ。

中学校の時には感じなかった「授業中眠い」という感覚が昼食後に訪れる。多分、忙しかった母が、前日の残りのおかずと、ぎゅうぎゅうに詰めたご飯が入った「ドカ弁」、それに加えて昼休みに体育館で友だちとともに一所懸命やったバスケッ

トボールの疲れの所為だったのだろう。

眠い授業を何とかクリアして、清掃・ホームルーム時間をやり過ごし、いよいよメインイベントのクラブ活動(陸上競技部)のためグラウンドへ。私が一年生の頃(昭和三十八年)の陸上競技部は、その年に開催される山口国体の強化選手を大量に抱え、全国でも名だたる強豪校であった。そんな先輩諸氏に鍛えられ、薫陶を受け、大変楽しいクラブ活動であったが、二年生の始めに膝に大きな故障を抱えてしまい、以後記録的には延びなかった。しかし三年生の秋季県体まで現役として出場し、今は亡き山本修三先生に「市川、よう頑張ったの」と言われたときは流石にジンときたものだ。

野球場の思い出。多分三年生の夏

頃のことだったろう。誰もいない野球場の観覧席で一人の女子生徒と向き合っていて。誰にどうやって頼んで来て貰ったのか思い出せない。もちろん、鄭重に「お断りの言葉」をいただいたが、私にとって高校時代の大きな思い出の一つだ。あの女子生徒はどうしているのだろうかと思うようになったのは歳の所為か。

最後は「同級生、いつになっても同級生」。きれいに晴れた日も、雨の日も、風の日も。嫌いなことも、良いことも。嬉しいことや、悲しいこと、そして頭に来ることも。こんな雑多な空気を一緒に吸った同級生。こんな空気も卒業して四十年を過ぎる頃から、きれいな上澄みだけが楽しい思い出とともに残り、それ

をまた一緒に吸い始めている。



光高校 1 年生
(陸上競技部の大会で、向かって右側)



現在の陸上部の練習風景

ご冥福をお祈りします

光潮同窓会の第 2 代会長（昭和 35 年度～昭和 42 年度）を務められました福島文也氏（昭和 24 年卒）が平成 21 年 9 月 21 日に逝去されました。

また、光潮同窓会の初代会長（昭和 28 年度～昭和 34 年度）を務められました田村峰政氏（昭和 21 年卒）が平成 22 年 3 月 12 日に逝去されました。

戦後の多難な時期に、光潮同窓会の結成・設立に尽力され、同窓会の発展に極めて多大な貢献をされましたお二人の先輩に対しまして、光潮同窓会の会員一同、心からの御冥福をお祈りいたします。



道路入口から正面に体育館



中原靖生会長

支部だより

関東支部から

関東支部事務局長 藤井 政道 (昭和47年卒)

皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

関東支部の近況報告をさせていただきます。

4月19日(月)には本年度総会に向けての運営方針を決定すべく、三役会(会長・副会長3名・事務局)

を開催し、5月に発行する支部機関紙「うしお」34号の編集会議も来戸編集長同席の上、合わせて協議を致しました。又、5月15日(土)には、四谷「主婦会館プラザエフ」会議室において、本年度第1回常任幹事会を開催し(出席13名)、三役会での決定事項について承認頂きました。又、9月の学年幹事総会では作家室積光氏(S49年卒)に講演を依頼しました。

以下に今後の関東支部の日程と「うしお」34号の抜粋を掲載させて

頂きます。

関東支部機関紙

「うしお」34号より抜粋

◆宝迫一女(かずめ)さん、

作品展開催

関東支部でも総会時のミニ光潮展や会員への祝花などで活躍の宝迫一女さん(S40卒)の作品展「深雪アートフラワー〜野の花が好き〜」が、6月17〜22日(木〜火曜、10〜17時、最終日15時半まで)光市の冠山総合公園で開かれる。深雪アートフラワーは、料理研究者としてテレビの料理番組などでも知られる飯田深雪が創設したもので、造花を「立体絵画」というアートの域に高めた美しさが特徴。「今回は、制作中の写真も展示し、みなさんに手順もご紹介できるようにしました。多くの方に観ていただきたいので、光のお知り合いにも伝えていただければ」とのこと。宝迫さんは深雪アートフラワー師範としてさいたま市の自宅でもレッスンをこなしている。

* 関東支部事務局ご案内 *

〒164-0012
東京都中野区本町6丁目35番14号
アダチビル6階 アポロ環境衛生(株)内
事務局長 藤井政道 (S47年卒)

TEL 03 (5340) 3055
FAX 03 (5340) 3088
Eメール info-b@apollokankyoku.co.jp

平成22年度

関東支部の日程

- 9月11日(土) 12時〜
学年幹事総会
主婦会館プラザエフ
- 10月23日(土) 3時〜
関東支部総会
主婦会館プラザエフ
- 11月中旬 18時30分〜
第2回常任幹事会
主婦会館プラザエフ

◆総会お楽しみ抽選会特賞

「ふぐ宅配便セット(5人前)」ゲット!

総会では毎年、空クジなしの「おたのしみ抽選会」があり、光市直送の海鮮品や干物、光市の窯による陶器類などが当たるのをご存知でしょうか。作秋の総会では田中春子さん(S27卒)が特賞に当選。その感想と御礼の言葉を紹介します。「関東支部総会には初回から毎年出席してきたと思いますが、これまでに当たったのはヒジキ程度だったと思います。今回、初めてふぐの券が当たり、うれしかったこと。年末に届けってもらって妹3人も呼び、ほんとうにビックリの立派な皿とふぐ一式を鍋にして盛大な年忘れとなりました。大きな皿に盛られた絵のように見事なふぐさし、美味しかったです。今年はずが良かったのかしらと明るい気分でした」

聞けば、この「ふぐ一式」のお値段は2万3500円とか。総会出席者100人強に1人は、けっこうな確率。あなたも総会に出席して「ふ

ぐ一式」ゲットを狙ってみませんか?



◆第4回 ゴルフ同好会

桜舞い、つつじ咲き乱れる4月14日(水)、『武蔵野ゴルフクラブに』於いて第4回ゴルフ同好会が開催されました。

当クラブは1960年開場の名門クラブで、当関東支部監事の高山信夫(S55)氏のマイコースです。今回は中原会長(S34)以下、古地副会長(S40)、平原久嗣(S36)、久保和克(S36)、小熊俊次(S42)、高山信夫(S55)、藤井政道(S47)と藤井の家内、計8名が出走し、やや狭い難しいコースで悪戦苦闘を繰り広げました。尚、スコア・成績については披露致しません。

(記 S47年卒 藤井)

編集後記「帰去来兮。田園将蕪」

2月と4月に数日帰省しては実家の畑を耕した。生来の農夫だった義父が亡くなって14年。畑を世話してくれていたおばさんも亡くなり、ここ数年は誰も畑に足を踏み入れていない。かつて豊かに季節の野菜を育てていた畑は、わずか数年の間にキリン草(セイタカアワダチ草)に覆われ、片側から数メートルは笹に侵食されている。とりあえず密生したまま立ち枯れているキリン草を抜こうとすると、カヅラの蔓が縦横無尽に地を這い、根を張り、キリン草に絡まっている。かろうじて畑の体裁に戻す作業でさえ再開墾に近い重労働で丸2日かかった。

明日は帰京という日の日暮れ近く、ジャガイモの種芋5kgと人参・春菊などの種を蒔く。これが2月。4月にはトウモロコシ・地這キュウリ・枝豆の種を蒔いた。ろくに肥料も撒かず、しゃにむに耕した畑から僅かでも収穫があればいいが。

(記 S47年卒 来戸)

平成22年度

【関東支部役員名簿】

◎特別顧問 宗内 徳行

松岡満寿男

西崎 好一 (S26)

◎顧問

重岡 健司 (S27)

松岡 純雅 (S27)

近藤 克彦 (S32)

◎会長

中原 靖生 (S34)

◎副会長

山本 義博 (S37)

古地 昭彦 (S40)

松尾 清 (S46)

◎監査

高山 信夫 (S55)

◎常任幹事

石川 幸恵 (S29)

吉規 忠雄 (S32)

古閑 宣仁 (S42)

森光 克己 (S43)

大国 邦子 (S44)

大串 正春 (S45)

来戸由起子 (S47)

藤井 政道 (S47)

筒井 俊弘 (S53)

中村 文彦 (S55)

吉村 忠 (S60)

【事務局次長】

【事務局次長】



支部だより

関西支部から

関西支部長 鎌田 誠 (昭和30年卒)

昭和30年卒の鎌田 誠です。昨年8月、守田 清先輩の後任として、関西支部長を拝命しました。

本年は11月13日に、支部総会が開催されますが、多数のご参加を得て盛会たらしめるべく役員一同苦心しており、この8月には一同参集、打ち合わせを行なう予定であります。昭和41年ご卒業の田村 周治さんのご厚意により、氏の事務所において役員会を行っております。

昨年10月、関東支部会に出席しました。107人の同窓生が参加されました。従来30人弱の関西支部総会出席者に比べて、母集団の大小はあるものの、華やかで賑やかな雰囲気につき、ある種の羨望を禁じえませんでした。

感じたことは、①組織(連絡網)の充実。出席者は年配組が圧倒的に多いが、連絡網は平成卒業組の年度をよくカバーしている。②毎年開催される。(関西支部は隔年) ③二次

会は多数の参加者があり、盛り上がった。(三次会組もいた) ④会費制度

この小生の感想は、すでに役員の皆様にはご披露しました。方法論はこの8月の役員会で詰を行う予定ですが、今秋の支部総会にできるだけのご提案をして、会員諸兄諸姉のご意見を賜りたいと思っております。

昭和30年組はなかなか団結力?があつて、比較的出席率が高く、例年10名程度の参加者があります。関東支部においても、結構な参加者数でありました。これまで役員を務められた中山 肇君や福本 悦治君たちが牽引力を發揮してくれたおかげであり、これからお力添えをいただきたい。昨秋、灘辺 美津江さん(旧姓)にも加わっていたら、大阪の某所にて意見の交換を致しました。(中山は 我々の時代の校長であった中山 保則氏の御息である)。

同窓会とはなんぞや? 故郷 光への万感の思い。恩師、友人への個別的な思い出。各種イベントへの懐かしき記憶etc。別に難しい議論は必要ありません。お互いに飲み、食べて、語らって意義のある楽しさを共有しようではありませんか。そして母校の発展を希おうではありませんか。上海万博の盗用で話題となった岡本 真夜さんの『そのままの君でいて』があります。いわく、...もつと自由に、もつと素直に...疲れたときはいつでもいいよ、帰っておいで...。

今年の夏はチャンス到来! 光高は強いぞ! 甲子園球場に集まりました。そして校歌を高らかに歌おうではありませんか。

* 関西支部事務局ご案内 *

〒530-0041
 大阪市北区天神橋3丁目2番13号
 大阪膳写館ビル704 有限会社タムラ不動産鑑定内

TEL 06(6881)0900
 アドレス <http://koutyoukansai.hp.infoseek.co.jp/>
 Eメール tamura@heart.email.ne.jp

私の母校

同窓会幹事 市來 健之助 (昭和32年卒)



延べ九校転校した小生にとって、それぞれの学び舎が懐かしい思い出と共に母校である。

昭和二十一年に、北朝鮮からの引き揚げという特異的な事由も絡み合い、終戦後の荒廃した時代を生きた、一つの人生ドラマである。

その間、転入校で初めての担任の先生との出会いは何れの学校も忘れ難いもので、ご存命の恩師との賀状のやり取りは未だに続いている。この事は、多くの良き先生に出会った幸運な一面でもあり、転校の特典かも知れない。また、友人もしっかりである。

とりわけ、格別な思い出深い、かつての本校の跡地も工場に建て替わり、面影薄いのは誠に残念である。しかし、永年に亘って築かれた光高校魂は、永遠に輝く先人達の遺産で

当時、広大な敷地に平屋木造建ての校舎が整然と立ち並び、一周四百米のコースを持った県公認陸上競技場と野球場もある本校に、昭和三十年一月編入学以来二年間、のびのびと高校生活を楽しんだ。

陸上競技場のフィールド内で連敗続きのラグビーチームに、一勝ももたらす夢を持ち、練習に余念なく励み、県予選で対戦チームと引き分けた、あの善戦の感激は、友情に満ちたチームメイトと共に、忘れがたい一コマである。

小・中学校を含め、本校卒業まで、

あり、後世に引き継ぐ事が私たち光潮会仲間の責務と考える。



冠山総合公園一帯から水無瀬島を望む (平成 22 年春)

誇りある行動と連携

同窓会幹事 全日制PTA会長 都野 悦弘 (昭和53年卒)



私は、現在、自分の母校でもある本校の全日制のPTA会長を引き受けて3年目を迎えました。

そこで、母校と本会の二つの組織が今後発展していくための要素は何かを考えてみました。それぞれの組織の中にいる人、つまり、後輩（在校生）や会員の皆様が光高校生あるいは卒業生としての自覚と誇りをもって行動することであると思えます。

私は、PTA活動の中で、常々、高校生の保護者として何をしなければならぬか、言い換えれば「親の

責任」、「家庭の責任」について、保護者の皆様に問いかけ、お願いをしています。自分の未来への期待と不安で揺れ動く子どもたちに対しての責任を考えると、親としての不安や迷いも当然生じてきますが、一歩進んで自覚と誇りをもって子どもたちに寄り添う気持ちを忘れず保護者自身が生きる姿を見せることが必要であらうと思います。

わが光高校は地域の進学校として皆様に温かく愛され育まれ、また、多くの先輩方のご努力により築きあげられ、今日まで発展してまいりました。この歴史と伝統を今一度それぞれの立場で考え、在校生は、高校生としての本分を全うし、校訓である「至誠一貫、質実剛健、堅忍不拔」と文武両道の校風の中で、「知」「徳」「体」「情」の調和のとれた人間を目

指し、卒業生である会員の皆様は、社会の中で規範意識を持ち、社会貢献を実践するなどの行動をとつていくことが大切であると思います。そして最後に、個々に磨かれた努力を結集し、在校生と卒業生相互の連携を図り連帯感を醸成していくことが両組織の今後の発展への光明となりえる鍵であると思いますので、お互い向上心を持ち切磋琢磨していきたいものです。



入学式当日の新入生の表情 (平成 22 年 4 月)

光高の思い出と いきいきサロン

河田 理枝 (昭和 27 年卒)



最先端に行くジャーナリストの端くれになったような気持ちになったものです。

六年の時、戦争が終わり、教科書に墨を塗って世の中が逆さまになったことを感じ、翌年室積高女併設中学校に入学し、新聞紙を綴じたような教科書で勉強した覚えがあります。教育制度もアメリカ流となり、高校には横すべりで男子校に入り、男女共学で民主主義を学び、自由闊達な雰囲気の中で過しました。当時は物も食料も不足していて貧しい人も多く、特に私は事務局の掲示板に授業料未納の名前が貼り出されるのが恥ずかしくてたまりませんでした。それでも新聞部に入って社会の

敗戦とはいえ、高校生活は青い山脈の歌にあるような明るい雰囲気でしたが、迷いの多い青春であることに変わりはありません。私達にとつて最も貴重な経験は、私達が歴史の転換点に立ち会えたことです。何が起ころうと、ある時は猛々しく闘い、ある時は忍耐強く生きてきたように思います。今はボケ防止にウクレレを弾きながら、老人のサロンで同世代の人とほけない小唄を歌い、喋り、ぴんぴんコロリとあの世へ旅立ちたいと虫のいいことを願っています。



校内の満開の桜 (平成 22 年春)

希望の光燦として

大和江 智宏 (平成2年卒)



私は本県で教職に携わっている。

校種は中学校である。仕事柄、何度か母校光高校を訪れる機会がある。数年前の高校受験の引率の折、上司の計らいで母校光高校を訪れた。卒業して20年が経とうというのに校地に入るとかつて自分が使った下駄箱、教室、食堂に至るまで高校時代の日々がはつきりと思い出され、10代に戻ったのではないかという、錯覚を起こす。若々しく楽しかった高校時代の思い出が一挙に吹き出してくるのだ。けれど、自分たちの学生時代を思い、現在の学生を見ると、

ふと違和感を覚えることがある。それは、生徒の進路への意識の変化である。

全国的に不登校や無気力が問題となっているが、本県も例外ではない。将来に対して夢や目標を持つことができないため進学したい高校が決められない生徒がいる。反面、不景気であるためコンパクトに自分をまとめようと「資格が取れる高校」、「就職につながる高校」という実利的な希望を持つ生徒も多い。私たちの時代には少数であったように思うのだが……。

進路に悩む生徒達との関わりの中で「先生はなぜ高校に進学したの？」と問われることがある。改めて聞かれると答えに窮してしまう。はたして私は明確な目的を持って光高校に進学したのであるか、残念

ながら答えは否である。

「近所の普通高校だったから」これが15歳の私が光高校への進学を希望した理由である。けれど、私にとってはこの選択がよかったと思っている。私が入学した当時、光高校生徒は約千名で校内は、活気に満ちていた。千人もいれば様々な人間がいる。自分の可能性を極限までのばそうと勉強にいそしむもの、部活動で汗を流し、文武両道を目指すもの、勉強はそつちのけで仲間と自分の好きなこと没頭するもの、私はどちらかといえば三番目であった。勉強はもとより余り得意でない私も仲間と語らうために通学していたようなものである。日々の学校生活を始め、部活動、学校行事、夜遅くまで残り、いったい何をしていったのかわからないが、仲間とたわいのないことに興じ、青臭いことを語りながら日々過ごしていたような気がする。

普通高校であるが故に、何者になるかまだ明確でなく、皆が自分の可能性を模索している、そんな学校であったように思う。私はその中で先

輩や友の姿を参考にし、影響を受けながら学校生活を送ることができた。漠然とした自分のカタチを形成してくれたのは高校時代だった。社会に出てから光高校卒というだけで近しさを感じ、同窓生の皆様から声をかけてもらった。職場の先輩から身に相談に乗ってくくださる方も多い。卒業してなお母校のあたたかさを感じている。

母校は基本的にひとりにひとつである。だから、他と比べてどうということではない。ただ、自分を育ててくれた母校があるということは素晴らしいことである。高校とは様々なことを体験し、多くの人と出会い、自己を形成する場であると思う。

私は幸せなことにそんな経験をさせていただいた。だから、生徒の「高校に行く理由は何か？」という質問にこう答える。「その答えを探すため……。」

光潮同窓会にむけて

藤井 政彰 (平成3年卒)



く、頼もしく感じたことを今でも
はつきりと覚えています。

光高校を卒業し、もうすぐ20年が
経とうとしています。私は、光高校
を卒業し長崎で大学生生活4年を過
し、大阪市で6年間営業の仕事をし
て、Uターンで光に還ってきたので
すが、その10年間で洪水や水不足、
豪雪災害を体験しふるさと光市の住
みよさと恵まれた環境を肌で感
じました。

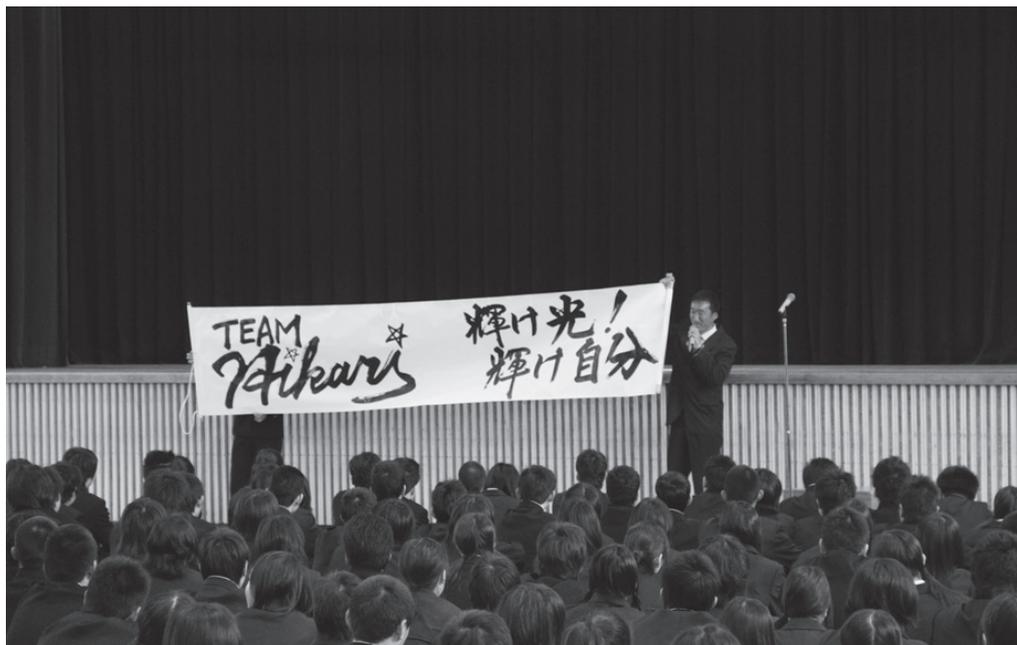
光市を離れて初めて感じることや
後輩の活躍を耳にし、「光高校」で
過ごした日々を思い出し、そこで過
ごした懐かしさや旧友のことなど、
どうしているかなと思う場面があり
ました。そして、もうすぐ卒業して
20年という月日を考え、そろそろ同
級生の息子さんや娘さんが、活躍し
てくるころだなあ。もしかして、母
校に入学し活躍しているかも・・・
ということを考えたりもするよう
になりました。

さらに、大学生の時、光高校が甲
子園出場を果たしました。大学で知
り合った友人から出場に際し、驚き
や祝福の言葉をいただき、後輩たち
が頑張って掴んだ栄光を大変誇らし

このたび光潮同窓会の広報紙の寄
稿にあたり、魅力ある広報をつくる
ために、そのようなところを強く盛
り込んでいってほしいと思いまし
た。いまの光高校が頑張っている在
校生の姿を紹介しながら、それぞれ

の世代が頑張っていた頃の思い出を
振り返り、母校の歴史と伝統を世代
を超えてその姿を映し出すような内
容を加えていくことによって、懐か
しい顔や共感する思い出が見出さ

れ光潮同窓会への魅力が高まってい
くのではないかと思います。多くの皆
様のアイデアを取り入れ、更なる
光潮同窓会の発展を祈念しておりま
す。



「対面式」終了後の全校集会 (平成 22 年 4 月)

同窓会実行委員長からのメッセージ

平成22年度同窓会懇親会実行委員長 萬谷 竹彦 (昭和60年卒)



体育館側から正面入口

光高校での思い出。たくさんあります。その中の特に思い入れのあるものを二つ。一つ目は高校生活のほとんどの時間を費やしたと思われる野球部での活動。その頃の野球部は甲子園の「こ」の字も見えなかったけれど、それなりに充実した青春の汗を流しました。もう一つの思い出は生徒会活動。何を思ったか、生徒会長選挙に立候補。当選。卒業式の送辞、先生の離任式での挨拶、各部活動の予算編成などなど。先生方は不安な気持ちで見守っておられたと思います。メンバーにも恵まれ、緊張しながらも楽しい生徒会活動でした。

振り返ってみると、いろんなことで怒ったり、はぶてたり、ちょっとしたことで喜んだり・仲間たちと将来の自分たちを語り合ったり・

無限にあると錯覚を起こすほどの緩やかに流れる高校生活の時間。今から考えれば、もう一度戻りたいような・戻りたくないような・こんな青春の日々が間違いなく今の私達を形作ってきたのだと思います。

本年度は、「永遠の夢にむかって」をテーマに、八月十四日にホテル松原屋に於いて開催します。年代は違えども同じ教室で学び、遊び、自分の将来に不安を抱きながらもがんばったもの同士が集い、これからの自分のエネルギーになるものを持ち帰る・・・また、同じ学校で青春時代を過ごしたものが、緩やかな連帯の和を感じることができ・・・そんな素敵な会を目指してまいります。

サブテーマ「Turn back the clock day」の意味は「時計を戻す日」。



1年生「光潮セミナー」での「ワークトレーニング」～1人でもはみ出したらクラスの輪(和)が乱れるよ(平成22年4月、光青年の家)

皆さんの時計を高校時代に戻して、かつての自分に思いを寄せに、ぜひ、お越し下さい。

(平成 22 年 6 月 2 日付)

瀬戸内

野球に対する姿勢

〇…今年は市内野球チームの活躍が目立ち、このところ瀬戸内タイムスの紙面も野球に関する記事が盛りだくさんだ。前号で、光シーガルの都市対抗県予選優勝▼島田中学校が県春季体育大会東部大会で 11 年ぶりの優勝▼全水道光の高松宮脇杯全日本軟式野球県大会準優勝を紹介。今回号でも、1 面で光高校中国大会出場を取り上げた。

春先は低迷していた光シーガルスも、肝心の都市対抗県予選を優勝で突破し、中国地区予選進出を決めてくれた。特に、逆転ホームランを放った榎真選手をはじめ、決勝戦で打点をあげた矢次信耶選手、岡藤雄太選手の 3 人とも、これまであまり目立たなかったが、

東京ドームへの夢をあきらめず練習を続けてきた選手だけに、拍手を贈りたい。

ところで、少し前のことだが、光高校に通の手紙が届いた。その全文を紹介させていただく。

光高等野球部の選手たちのマナーが良いのは、今年に限ったことではない。平成 5、6 年に夏の甲子園大会に連続出場したときも「さわやか旋風」を巻き起こし、市民から選手たちの挨拶を褒める投書が本社にも届いた。

どうしても、チームが強い年は市民の注目が集まり、その目を意識して選手たちも、さらにマナーが良くなるということはあるだろう。

田村拳人主将は「(応援に対する) 恩返しは、試合に勝つことと、野球に対する姿勢や元気で頑張る姿を見ていただくことだと思う」(5 面掲載) とインタビューに答えた。そんな選手たちに注目したい。

(浦)

光高等学校野球部他関係者の皆さんへ

3月20日、美祢市市民球場での遠征お疲れでした。

私は 77 歳の老人ですが、根っからの高校野球ファンであります。あのひた向きなプレーに、しかも勝負に拘らず最後まで全力を尽くす姿に感動を覚えます。

今回、お礼の手紙を出す気になったのは、私が 8 時 30 分に、球場に着いた時から始まります。胸に「光」のマークが入った選手が、3 人位いましたが皆帽子を脱いで「今日は」と挨拶してくれました。私は 3 塁側でプレーをゆっくり見る様になっていますが、本当に爽やかな気分で見せて頂きました。午前の試合が終わり、受付に行き次回の日程を見ようと車を降りると、そこに 4、5 人選手が弁当を広げていました。手を休め立ち上がって「今日は」。日ごろ老人は相手にされないもので、嬉しかったですね。今時どのようにすれば、このように爽やかで、しかも礼儀正しい人に育つのかと考えさせられました。学校の良き指導、それを素直に受け入れる選手達、帰って家族にその事を話し、今日の野球観戦、本当に良かったねと言われました。有難うございました。



室積半島 (象鼻ヶ岬)、左後方は尾島、奥後方は祝島 (平成 22 年春)



光高校歌

一、希望の光燦として
 今ぞ明け行く新日本
 周防の灘のあら潮に
 鍛え磨かん身と心
 輝け光あげよその名
 吾が学び舎に栄えあれ

二、高き理想の峰に咲く
 真理求めん朝な夕
 蛍雪窓に文を読み
 千古に不磨の想を練る
 輝け光あげよその名
 吾が学び舎に栄えあれ

三、広く文化の粹をとり
 まもる正義の自由人
 四海の友と手をとりにて
 ゆるがぬ平和打ち立てん
 輝け光あげよその名
 吾が学び舎に栄えあれ

室女校歌

みたらい学園歌

一、みそらにゆるく波うちて
 朝日に映ゆる峰つづき
 峨嵋の山松 えましくも
 しめすはときはのいろにして
 誓いてつよかれ 新らし使命
 ああ 室積 室積
 楽しき まなびや

二、真昼日高く輝きて
 島山遠き 周防灘
 船路遙けく 渡るにも
 力は「まこと」の舵にして
 希望もゆたけく 放てよ眼
 ああ 室積 室積
 楽しき まなびや

三、虹の松原 象鼻岬
 鼓が浦に みたらいに
 くだけささやき 湛ふれど
 にごらぬ 夕べの潮にして
 競えど 睦みてほこれよきよ
 ああ 室積 室積
 楽しき まなびや

光中校歌

横尾 石夫 氏作

一、御稜威四海に燦として
 今ぞ明けゆく大東亜
 周防の灘のあら潮に
 雄心きそふ健児吾れ
 かゝやけ光挙げよその名
 吾が学び舎はこゝに成りぬ

二、大みをしへをかしくみて
 御旨に副はむ朝な夕
 蛍雪窓に文をよみ
 練武不磨の剣をとぐ
 かゝやけ光挙げよその名
 吾が学び舎はこゝに成りぬ

三、雲畑萬里すめらぎの
 御旗は進む時ぞ今
 いさをし薫る父祖の血に
 吾れも恥なき神州昇
 かゝやけ光挙げよその名
 吾が学び舎はこゝに成りぬ



校舎遠望（平成22年春）

編集後記

光高等学校同窓会の「光潮会報」は、昨年度から年1回、毎年8月に開催する光潮同窓会総会時の発行としています。

同窓会広報部では、「光潮会報」の改善と充実が同窓会の活性化、発展につながるの考えから、今回の「会報第63号」の発行に当たり、広報委員会（会報編集会議）を2回開催し、同窓会の目的や会報発行の趣旨をはじめ、会報のあり方、同窓生に読まれる会報、会報のPRや配布方法、母校の発展に向けての提言、在校生への支援方策など、まさにいろいろな視点からの協議を行いました。

今回の会報では、これらの協議の結果が十分に反映しているわけではありませんが、広報部においては、少しでも会報を改善、可能な限り会報の充実を図ろうという気運だけは着実に芽生えてまいりました。

同窓会の支部組織である関東支部からは藤井事務局長、関西支部からは、新しく支部長に就任されました鎌田支部長から原稿をお寄せいただきました。

また、会報発行に当たっては、校務多用の中、同窓会事務局（広報部担当）の岡部彰彦先生（数学期担当、昭和60年卒）には、広報委員会の開催、原稿依頼、出稿などに尽力していただきました。心から感謝しています。

さて、私（守田）は、20数年にわたり、広報部の一員として「光潮会報」の発行・編集に携わってきましたが、今回、会報発行の第一線から退くことになりました。

今思えば、当時、勤務先の光市役所で公私ともに尊敬する岡村晃治先輩（現在、光市民ホール館長）から広報部の業務を引き継いで、20数年という長い年月が経過しました。あまりにも長い担当であったことから、最近の会報の発行においては、自身の悪しき実態として、「思い込み、思い違い、思い上がり」の「思い三悪」なるものが顕著になってまいりました。率直に反省しています。

来年夏に発行の次回の会報からは、会報部の体制を一新し、新たなリーダーとスタッフにより「新生・広報部」がスタートすることになります。現在、広報部の新しいスタッフとは、事務引き継ぎも含めて、広報部の円滑な運営と充実した会報の発行が可能となるよう、十分な協議を行っているところです。

今まで長い間にわたり、温かくも力強いご指導、ご支援、ご協力をいただきました多くの関係の皆様に対しまして、深甚なる敬意と謝意を表する次第であります。

終わりになりましたが、全ての卒業生の会員の皆様、校長先生をはじめとする学校の教職員の方々、そして在校生の皆さんの今後ますますのご活躍とご健勝を願いまして、『最後の編集後記』とさせていただきます。

本当に有難うございました。

（同窓会広報部長 昭和42年卒、守田義昭）



発 行 山口県立光高等学校光潮同窓会
山口県光市光井 6-10-1
TEL 0833-72-0340 (光高等学校)

印 刷 中村印刷株式会社